

## 博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成27年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	慶應義塾大学	整理番号	B04
プログラム名称	グローバル環境システムリーダープログラム		
プログラム責任者	真壁 利明	プログラム コーディネーター	清木 康
<p>1. 進捗状況概要</p> <p>【全体的な印象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 充実した指導・支援体制が構築され、政策志向型の研究を組み合わせた文理融合型の取組が機能し、計画が着実に進行している。</li> <li>・ 特に海外でのインターンシップの経験や RA ミーティングなどによる学生相互のコミュニケーションなどをおして、国際的に活躍するグローバル・リーダー像を学生それぞれが体得し、相互にモチベーションを高めあうことができている。これらの効果として、従来の縦割り型の1つのキャリアに固執したイメージではない、分野横断的で、国際性のある多様なキャリアパスを積極的にイメージできている。</li> </ul> <p>【個別事項】</p> <p>○学位プログラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Black Wednesday（指導教員による研究進捗状況報告）、合同研究科セミナーや RA ミーティングなどがそれぞれ機能しており、教員間、教員と学生間のコミュニケーションが図られ、教育効果をあげている。</li> <li>・ 半年ないし3ヶ月にわたる海外でのインターンシップが学生のモチベーションを高め、大きな教育効果をあげている。</li> <li>・ Black Wednesday、合同研究科セミナーにおける「2段階評価方式（書類評価及び口頭発表評価）」の導入に当たっても、どのような学生について口頭発表を課し、またどちらの評価を優先すべきか、よく考えられている。</li> <li>・ 優秀な学生の確保に成功している。</li> </ul> <p>○組織・マネジメント体制等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラム担当教員18名、プログラム担当外の教員16名、海外連携・提携機関教員44名が指導教員を担う、連携研究指導体制が構築されている。</li> <li>・ 外国人教員を副査にする海外副査制度が本年度から大学院の全研究科に波及しており、本プログラムの展開が全学の大学院改革の重要な契機となっている。</li> </ul> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーディングプログラムの目的であるグローバル・リーダーの育成に向けて着実に計画が進行している。本プログラムの取組の1つが全学の取組に繋がっており、継続的な努力によって、大学院改革の全国的なモデルケースとなることが期待できる。</li> </ul>			